（C）日刊スポーツ新聞社



2014.7.23→2020.7.24

◆五輪メダリスト紹介◆ 進藤泰雄（えんどう・ゆきお）68メキシコシティー大会体操男子団体総合金＝日本のエース外最後に鞍馬で決まった金　団体金に貢献するとともに、跳馬で銅メダルを獲得した。引退後は指導者として活躍、日本体操協会でも要職を歴任した

## 次回5月3日(水)

2020年東京五輪へ 300人リレーコラム 第143人目 題字は北島康介自筆

### JRA調教師 久保田貴士 49

僕は明大の馬術部に所属していました。1日何時間も馬に乗り続ける毎日。監督の指導も厳しかったですが、2年から4年の時に全日本学生馬術選手権3連覇などの成績を残すことができました。当時はやっぱり五輪を目指していたという思いがありましたね。

大学4年の時に、ソウル五輪の障害飛越部門の一発勝負の選考会が行われることになったんです。ただ、大学でいえばもうレベルでは圧倒的に厳しい五輪出場を狙うならいい馬を買う必要があった。その時は若かったんでしょうね、いきなり父に電話して「五輪予選のために馬を買いたいんだけど、数千万円用意できる？」って、当然、すごく断られました笑い。

## 父に馬を買いたいんだけど数千万円用意できる？って

それまで本当に僕の自由にさせてくれていたなと。その後、生まれて初めて真剣に進路の話をしました。そして僕の道を自由に指すことに決めたんです。

川崎市生田にあった明大馬術部の寮は、当時、監督が中心になってOBに声をかけ、2月半ばにそこに集まりますけど、行ってみるとやっぱり懐かしい。昔話はできませんが、今も競技を続けている後輩たちの姿を目指しているようなものでした。

次の五輪を目指していくようなものでしょうか。2020年東京五輪を機に馬術競技の魅力が多くの方に伝わってほしい、馬を身近に感じるきっかけにもなってほしいと思います。

やはり東京でやるというのは高いモチベーションになっているようです。

馬術は、馬というパートナーが欠かせない競技。選手本人だけでなく馬のコンディショニングも不可欠要素です。長距離競技ならいざ知らず、1日の時間でいえば、それこそ1時間ほどの世界。ほんの一瞬の勝負の世界です。

馬術は、馬というパートナーが欠かせない競技。選手本人だけでなく馬のコンディショニングも不可欠要素です。長距離競技ならいざ知らず、1日の時間でいえば、それこそ1時間ほどの世界。ほんの一瞬の勝負の世界です。

## レガシー特集④「ピクトグラム」

# 日本馬術の中心地

## 1940年「幻の五輪」用に造成　1964年「東京五輪」で日の目　そして2020年へ全面改修中

# 生まれ変わっても

### 馬術家・西村修一氏が語る 馬事公苑の過去・現在・未来

馬術の聖地である馬事公苑（東京・世田谷区）は戦争により幻に終わった1940年（昭15）東京五輪用に造成され、64年東京五輪で日の目を見、そして2020年東京五輪で休苑し、東京ドーム4個分にあたる約18ヘクタールの敷地を全面改修工事中。馬術家で馬事公苑の生き字引、西村修一氏（86＝写真）がレガシーの過去と未来を語った。【取材＝高木一成、松田直樹】

#### 閉会日も唯一競技

僕の人生は馬術公苑とともにあると言っていいでしょう。小さい頃は遊び場の芝でよく野球をしたものです。馬事公苑は1940年に開苑しましたが、すぐに戦争が始まってしまって利用されたんです。最初に行われた競技会は馬術の国体予選で開催された46年春ごろだったのではないでしょうか。そこで優勝。今は影絵家をしながら関わりを持たせていただいています。

64年東京五輪の馬術競技は、馬事公苑で馬場馬術、国立競技場で障害飛越、軽井沢で総合馬術が行われました。馬術が目玉スポーツだったというのは、開催日程を見ればわかります。なにせ、最終日にも唯一競技が行われたわけですから。

最終日の昼休み、既に馬場馬術で金メダルを獲得していた西ドイツのヒルケンス選手が、ウルマルタン・ディンツエオなど一般品の選手たちを見て「ここまで違うものか」と嘆息した記憶があります。人馬の動きの切れをはじめ、競技の普及、関心の度合いが違いますし、馬術を通じて、日本が世界に向けて平和を発信する意義も大きかった、いいアピールになったと思います。

#### 欧州はすごかった

とにかくあの時代から欧州はいろいろもろもろこった。彼ら2週間ほど滞在中は、早朝から馬事公苑まで練習を見に行ったものです。フィラトフ、シャマルタン、ディンツエオなど一般品の選手たちを見て「ここまで違うものか」と嘆息した記憶があります。人馬の動きの切れをはじめ、競技のレベルは僕らがやっていた馬術の延長線上にはなかった。層が違いましたし、馬と会話ができるのではないかと感じさせるほどの動きでした。最近はジャパンオープンなど海外を招聘し、ミストの状況などを勘案して、できる限りベストの環境を整えてあげてほしいと思います。

#### 成功へ最上環境を

五輪開催が決まった以上は、成功させないといけない。しかし、馬にとって湿度85％、気温35度を超える環境は、はっきり申し上げて良くない状況です。競技会を行うためには、いい状況は最上環境を作ってあげないといけない。距離は20度前後、今とは状況が違いすぎる。環境次第では欧州の有力馬が来なくなってしまう可能性もあります。08年北京五輪はサイナタ開催でしたし、ミストの状況などを勘案して、できる限りベストの環境を整えてあげてほしいと思います。

◆西村修一（にしむら・しゅういち）1930年（昭5）5月13日、東京都生まれ。慶大卒。50年全日本学生馬術選手権個人優勝、56年全日本選手権グランプリ馬場馬術優勝（優勝なし）、受賞歴多数。国民体育大会出場優勝2回、2＝3位5回）。01年、馬場馬術世界ランキング62位。馬術連盟理事、馬場馬術世界ランキング62位。馬術連盟理事、馬場馬術世界ランキング62位。馬術連盟理事